

令和5年度 まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

開催日時	令和5年8月29日(火)	10時30分～11時30分
開催場所	半田市役所 庁議室	
会議次第	【議題】 基本目標2「市内外から人々が集い活発な交流のある『まち』をつくる」 ①所管課長説明 ②質疑 ③評価	
出席委員 (欠席委員)	(委員長) 鈴木委員長 (委員) 高木委員、福井委員、大参委員、遠藤委員、林委員、北村委員、山本委員 (欠席) 福田委員	
事務局	企画部長、企画課長、企画課(内田・中村)	
出席職員	観光課長、スポーツ課長	
議事概要		
①所管課説明	資料及び事前質問回答に基づき、説明(観光課長)	
②質疑	【委員】 指標の「店舗での尾州早すしの提供数」について、早すしを提供できる主力店が令和4年度に閉店したとあるが、この閉店がなかったとしても指標の目標値(2024年度、10,000食提供)は達成できない見込みか。 【観光課長】 半田を訪れた観光客がどこでも早すしを食べられる環境を作ることが望ましいが、コロナ禍などの影響により閉店してしまう寿司店が出てきている。また、早すしはシャリが特殊なため既存の寿司店での新たな提供も難しく、提供店舗数の増加は厳しい状況にある。しかし、半田市の醸造文化をPRしていくにあたり、特徴のある早すしには一定の価値がある。一般的なすしを提供する店舗と併せて、半田市の食文化を代表するものとしてPRしていきたい。 【委員】 目標値が達成できるかどうかとはまた別に、半田市の食文化のPRというような側面からの取組も検討を進めてほしい。 【委員】 指標の「レンタサイクルの利用回数」は基準値(2018年度、2349回)を下回っているが、レンタサイクルの利用シーンはどのような場合か。 【観光課長】	

レンタサイクルの需要としては、ビジネスパーソンの利用が多い。出張等で半田市内のホテルに滞在し、レンタサイクルで飲食店に行ったり観光に行ったりするケースがある。自動車ですり観光をめぐりるケースも多いため、利用回数が伸び悩んでいると考えられる。今後、中心市街地の活性化の一環としてレンタサイクルの利便性を向上させるための取組も検討していきたい。

【委員】

指標の「観光入込客数」について、令和4年度（2022年度）はアフターコロナの時期ということで134万人と前年度よりは増加しているものの、愛知県全体での傾向と比較すると伸び悩んでいるように思われた。半田市の各イベント等の観光入込客数の内訳をみると、春の山車まつりが一部縮小して開催したことやミツカンミュージアム（M I M）の入場制限が影響していると考えられる。

M I Mについては、利用者数を増やそうというよりも、各利用者の満足度を向上し高付加価値化やブランド化を図っていくという方向性が見て取れる。観光入込客数という数量の増減による評価だけではなく、今後を見据えた成果のとらえ方や観光施策のあり方も必要になってきている。

【委員】

評価のための指標という性質上、観光入込客数という数量的指標のすべてを省くことは難しいが、他方で高付加価値化やブランド化といった視点は重要である。

【観光課長】

高付加価値化やブランド化、観光を通じた人と人との関わりの形成といった多様な効果や意義が半田市の観光には求められていると感じている。例えば少人数を対象としたガストロノミーの実施による高付加価値化など、数量（観光入込客数）だけにとらわれない取組も行い始めている。

【委員】

山車・蔵・南吉といった代表的な観光資源以外にも、半田市には港湾・海岸もある。こうした新たな地域資源を活用して、例えば緑地公園や海が見える場所に観光客が訪れたいと思える飲食店や道の駅を設置してみてもいいのではないかと。

【観光課長】

一部エリアは用途地域が工業専用地域に指定されているため難しい場合もある。また、海が見えるという点では、堤防が視界を遮るため場所が限られる場合もある。

【委員】

コロナ禍を経て、観光客が楽しめるような体験型の取組の実施やそれをふまえた評価指標の設定が重要であると感じている。ふるさと納税についても、寄附者が半田

	<p>市に訪れて楽しめる体験型の返礼品の需要が増えていると思われる。観光施策やふるさと納税において、こうした体験型の内容も重視していくとよい。</p> <p>【企画課長】</p> <p>ふるさと納税においては、体験型の返礼品の出品も現在取組んでおり、すでにいくつかのメニューも出品までこぎつけている。ふるさと納税に出品している、出品を検討している事業者に向けて説明会も開催し、新たな返礼品出品や事業者登録を促している。こうした取組により、今年度の現時点でも出品事業者数や返礼品数は増加している。こうしたふるさと納税の取組を通して、半田市へのふるさと納税の寄附者、言い換えると半田市との関係人口の増加につなげていきたい。</p> <p>また、シティプロモーション推進事業として、はんだの魅力発見ツアーを実施しており、その一環として「夏休みこども にぎりずし体験」の企画も今年度開催した。こうした体験型の企画を通して、市内外への半田市の魅力のPRを行っている。</p> <p>【委員】</p> <p>シティプロモーション推進事業について、西三河地域への情報発信とはどのような取組を行っているか。西三河地域に限定しない取組も行っているのか。</p> <p>【企画課長】</p> <p>西三河地域を対象とした情報誌「chao」への知多牛や観光イベント等の半田市の紹介記事を掲載した。はんだの魅力発見ツアーについては、対象者は西三河地域の在住者に限定してはいない。先ほどの「にぎりずし体験」のツアーの他にも、「牧場潜入ツアー」や「山車の組み上げ見学ツアー」も実施しており、畜産や山車文化等の幅広い分野における体験型の企画を検討して実施している。</p>
<p>③評価</p>	<p>【委員】</p> <p>B評価。</p> <p>指標だけを見るとC評価になってしまうが、取組の方向性自体は間違っておらず、コロナ禍以後の回復もある程度期待できる。ただし、観光客の満足度向上や高付加価値化などの課題もある。</p> <p>【委員】</p> <p>B評価。</p> <p>観光入込客数も県全体の回復傾向や基準値は下回ってはいたものの、一定の回復が見られており、今後の増加も期待できる。各取組についても様々なアイデアを出しながら実行していることがうかがえた。</p> <p>【委員】</p> <p>B評価。</p>

全体としては、新しい取組も着実に実施できている。観光 SNS のフォロワー数も順調に伸びていることから、市外向けの発信もさらに強化していけるとよい。

【委員】

B 評価。

観光入込客数の増により観光分野の売上を増やしていくという方向性を必ずしもとらないのであれば、現行の戦略の指標を変更していく必要がある。個々の取組については着実に進められている。

【委員】

B 評価。

観光入込客数を始めとした指標は完全に回復したわけではないが、他方で、はんだの魅力発見ツアーなどの魅力的な取組が実施できている。ぜひ観光客の満足度を測れるような指標の検討も進めてほしい。

【委員】

B 評価。

コロナ禍の最中、以後ともに状況を見ながら様々な施策を行えている。今後は観光客の満足度を測れるような指標の導入も検討して行ってほしい。

【委員】

B 評価。

港湾・海岸エリアの観光施策の展開と体験型の取組の実施が今後の課題である。基本目標 2 のとおり、市内外から人々が集い活発な交流につなげていくという点では、他市町との連携を見据えた施策の展開が求められている。

【委員】

B 評価。

観光入込客数は伸び悩んでいるものの、その原因なども把握できており改善が期待できる。各取組は着実に実施できているほか、尾州早すしの展開といった難易度の高い取組もチャレンジしている。

全体としての評価は、B 評価。